

福祉 × 林業 × 海・陸

障がいの有無を問わず誰もが元気になる 陸上海藻養殖の取り組み



≡(★注目ポイント★)≡

- 1 障がい者や職員を含めコミュニティの誰もが活力を得られる、海藻を育てつつ食べる循環型モデル
- 2 連携先と話し合いながら一人ひとりに合った作業環境を整備し、工賃向上につながると同時に達成感を味わう
- 3 短時間ではあるが、障がい者の作業を見守っていた地域の人の雇用にもつながる事例も

社会福祉法人燦々会
あすなろホーム
http://rt-asunaro-home.com
(岩手県陸前高田市)

合同会社シーベジタブル※

●基本データ(令和3(2021)年11月現在)

〒381-2226
所在地 岩手県陸前高田市高田町字東和野37-1
TEL 0192-55-2978
開設年 平成16(2004)年
実施事業 就労継続支援B型(定員30人、現員42人)ほか
主たる障がい 知的

利用者の平均年齢 36歳
福祉事業活動における直接支援職員数 15人
目標工賃達成指導員の配置 有



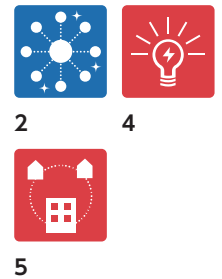
※ 合同会社シーベジタブル／海藻で人と地域を元気にする事業を展開

概要

あすなろホームを運営する社会福祉法人燦々会は、以前より関係があった地元企業の社長に海藻の養殖企業との連携を打診されたことをきっかけに、水産業に携わる事業を開始しました。陸上養殖した海藻の収穫・洗浄と乾燥、選別・袋詰めを行っています。

4月～11月には収穫した海藻の洗浄・乾燥作業、12月～3月は海藻の選別・袋詰め作業を行います。

SELP Vision 2030



利用者数と活動日数 (令和3年9月実績)

1日以上参加した利用者数 24人

活動日数 22日

参加した延べ人数 205人

利用者の所属 | 就労継続支援B型事業

開始までの経緯

社会福祉法人燦々会と以前より関わりがあった地元企業の社長から、海藻の陸上養殖を行いたい企業があるようだという情報がもたらされ、活動内容の説明を受けました。

その後、あすなろホームを合同会社シーベジタブルが訪問。事業所での作業の内容と工賃を協議し、施設外就労の契約を締結しました。



海藻の乾燥や選別作業を行う作業場

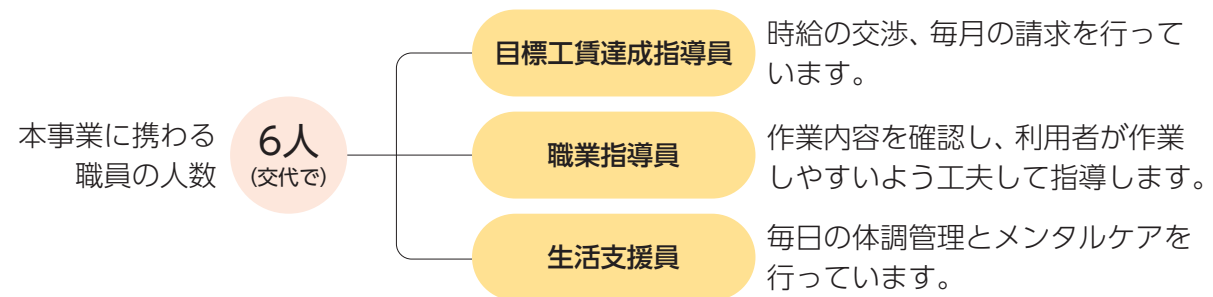
具体的な取り組み

陸上養殖した海藻（すじ青のり）の収穫と乾燥、袋詰めを行います。4月～11月は港のそばに建てた養殖施設で陸上養殖された海藻を利用者が収穫・洗浄し、近くのプレハブ小屋で乾燥させる作業を行います。12月～3月はシーベジタブルから送られてくる海藻類の選別と袋詰め作業に向き合います。

袋詰め作業は海藻を選別しながら手作業で行い、小さなもの、細かなものの選別にはピンセットを使用します。作業工程では利用者の障がい特性を考慮し、それぞれが得意分野を活かしています。

一年を通してコミュニティの一員であることを感じられる取り組みです。生産に携わるすじ青のりは、ふるさと納税の返礼品にもなりました。

職員の役割



目標工賃達成指導員 シーベジタブルと時給を交渉し毎月の工賃を請求します。

職業指導員 利用者の障がい特性を考慮し、得意分野を利用者に任せます。

生活支援員 利用者の毎日の体調確認や作業内容のチェック、休憩の促しなどのサポートを行います。



海藻の選別作業

生産設備・備品等

作業に必要な大きな機械はシーベジタブル側が揃えました。あすなろホームは施設と作業場の移動に使用する車とガソリン代、海藻の洗浄・乾燥作業や選別・袋詰め作業で使用するマスクや消毒液等を用意します（補助金の活用等なし）。

選別作業に入る前に必要な、海藻を金属探知機にかける工程は、シーベジタブルとは別の会社で行い、作業場に納品されます。機材導入にかかる負担を減らす工夫が凝らされていました。

工夫していること、心がけていること

契約時に

心がけていること

契約時、あすなろホームは綿密に内容を確認し、聞きにくいことも必ずシーベジタブルに確認します。利用者の特性や、できることとできないことを明確に伝えます。

施設外就労先と
関わる機会を
意識的に作る

年に数回、シーベジタブルの職員が作業場を訪ね、海藻の生育状況や作業全般を指導します。作業場だけでなくあすなろホームにも訪問し、一緒に報告や確認を一緒に行います。こうした行き来や、利用者対象の勉強会を通して意識的に施設外就労先と関わり、相互理解の促進を図っています。



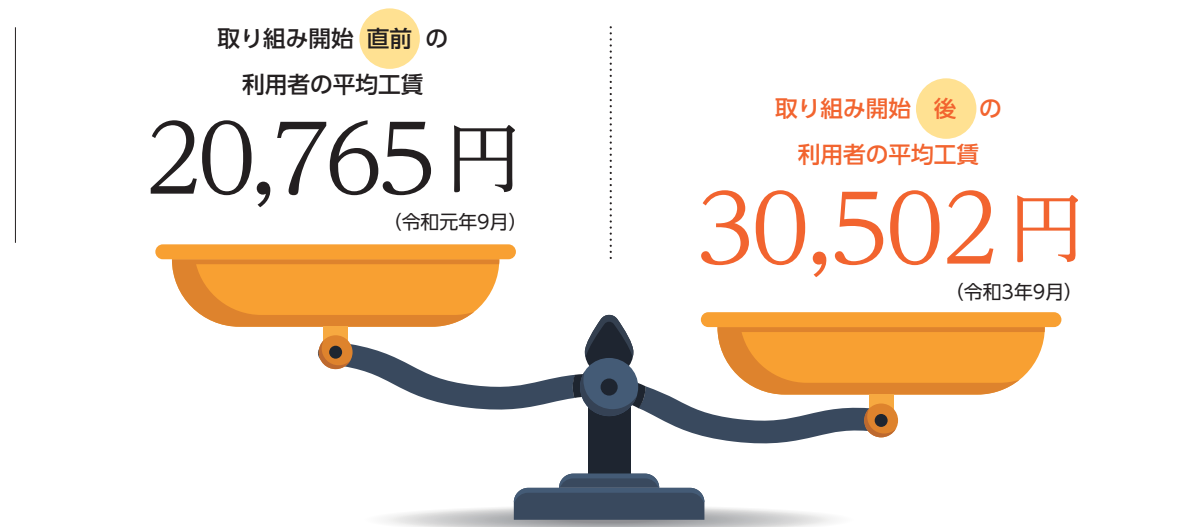
わかりやすいパッケージで商品化

課題と対応

- 課題 人員体制と移動時間** → **対応** 施設外就労に対応できるよう、取り組み初年度は、令和3年4月に常勤1人非常勤1人、9月に常勤1人非常勤1人の職員を増やしました。作業場所はあすなるホームから距離があり、車で片道30分かかります。そのため作業時間が限られる状況の解消が課題でした。新道路が開通し移動時間は約20分に短縮されました。
- 課題 施設外就労先との連携** → **対応** 連携先企業の職員が代わるたびに障がい特性の理解を求めることが必要となります。利用者と直接コミュニケーションをとることに遠慮を見せ、すれ違いが生じることもあるそうです。あすなるホームの職員は、作業場に出向いてお互いの思いを話し、理解がすすむためにできる方法を探り出すよう試みるといいます。
- 課題 新型コロナウイルス感染症対策** → **対応** 車で移動中にウイルスに感染しないよう、車内の換気に配慮し、マスクを着用、手指消毒も継続しています。朝は検温のほか体調をチェックしてから出かけます。

工賃の変動

どの作業に携わるか、作業習熟度・作業意欲がどのくらい伸びているかなどを、あすなるホームの職員がチェックし、工賃を検討します。その工夫によって利用者は施設外で動く作業を続けられ、気持ちが落ち着き、さまざまなトラブルが減りました。時間内に終了させることを続けるうち、時間に対する意識も格段に上がったそうです。もちろん工賃が向上したことで達成感を得た利用者もいました。



反応・効果

利用者の反応・効果

障がい特性に合った環境で作業することができ、利用者は任された作業を終えた時の達成感を覚えるようになったといいます。仲間が向き合う別の作業に興味を示し、挑戦しようとする心も育ちました。

職員の反応・効果

あすなるホームの職員は利用者の長所を再発見することができました。委託された作業の組み立てを考えることで利用者の理解はさらに深まり、全体を見て作業・支援計画を立てる力がつきました。

地域の反応・効果

地域の方たちが利用者の作業の様子をご覧になり、少しずつ障がい理解がすすんでいるそうです。週末土曜日・日曜日の養殖施設の水の管理等を地域の方に委託したところ、短時間であるものの雇用機会の創出につながりました。

★ 展望・課題



気候の影響を受けて海藻の生育状況が不安定となるため、シーベジタブルは、現在養殖する品種を変更したいと考えています。加えて、収穫以外の関連作業を委託し、徐々に、冬期(12月～3月)も安定した作業を確保することができるようになりたい考えです。

あすなるホームのSDGsへの取り組み

あすなるホームでは、養殖事業で発生するさまざまな廃棄物のうち、自然に還らないものを海に戻さないよう細心の注意を払っています。地元の漁業関係者と意見を交わし、海を大切にすることを心がけています。

